

世界の社窓から① ～ウズベキスタン・生活開始編～

報告者 2022.8 二葉知久

ウズベキスタン首都タシュケント生活開始

アパートの契約が決まるまでホテルで2日間過ごした。その2日間は日本大使館へ表敬訪問し、広報担当の方とお会いして話をうかがった。

JICA ウズベキスタン事務所は International Business Center というところにある。このビルにはいろいろな企業や公的な機関が入っているようだ。JICA 事務所で次長とお会いし、任国事情や JICA の役割について話をうかがった。この建物に要人が来るときには、下の受付は物々しい雰囲気になる。建物に入るには、まず入口で自分の持ち物、かばんを開けて中を見せる。そしてエレベータ前にゲートがあり、そこを通過するためには顔認証パスをしなければならず、毎回受付で写真を撮ってもらう。

2 日目は同じく事務所で安全対策についてローカルスタッフから話を聞いた。ウズベキスタンでは、重大犯罪は少ないようだ。しかし、交通事故などはあるので気を付けたい。

タシュケント到着から3日目でアパートに入居。かなり早いペースだと思う。コロナ前だと語学習得の目的のため、最初の4週間ぐらいは現地家庭にホームステイするのが通常だったが、こちらでもコロナが収束していないので、そのような措置がとられている。現地では熱中症のリスクもあるから、マスクをしている人はほとんど見かけない。だからといって感染患者がいないわけではない。JICA 健康管理員の話によると、公式に発表されている数字は正確ではないとのこと。なので、私は電車に乗るときや人込みに入るときはマスクをつけている。

